

鏡の扱い方

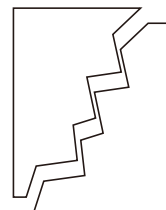
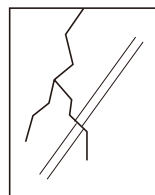
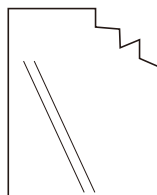
関連単元
6 光のせいしつ

事故防止のために

1

児童へ渡す前の点検

- ひびが入っていないか。
- 縁が欠けていないか。
- 割れていないか。



これらは廃棄する。

2

鏡を使うときの注意点

- 反射させた光を、人の顔に当てない。
⇒鏡は日光をよく反射させるので、反射光が不意に人の顔に当たるとおどかすことになる。また、まぶしく目にもよくない。
- 他の教室に向けて、光を反射させない。
⇒反射光が物に当たるとその部分が明るくなり、注目されやすいので、それが授業の妨げになることもある。
- 鏡はうすい板状のガラス製品が多いので、落としたり、物にぶつかるとすぐ割れる。
⇒割れた鏡で、手や腕に切り傷や刺し傷をすることがあるので、落とさないようにしっかり持たせ、また、机の端など落としやすいところには置かないようにする。
⇒鏡を手を持ったまま、ふざけて走り回ったりさせない。
- 割れたときは手袋をして片付け、けがをしないようにする。
⇒割れた鏡の破片は鋭利で、よく切れるので、けがをしないように、片付けには作業用手袋を使うようにする。
- 鏡をポケットの中に入れて持ち運ばない。
⇒ポケットに入れていて転んだりすると、鏡が割れてけがをすることがある。
- 友達に渡すときは、投げたりしないで、必ず手渡しで渡す。
⇒投げたて渡すと、鏡が割れたりして相手にけがをさせる原因になる。

3

使用後の点検

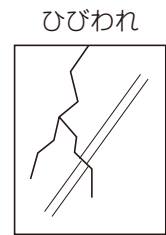
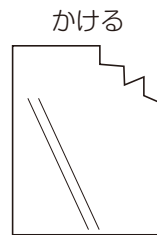
- 使用後は、ひび割れや欠けがないかをチェックして片付ける。
⇒ひび割れや欠損があれば廃棄処分にする。
- 学習終了後、貸し出したときの数が返っているかを確認する。

かがみのあつかい方

かがみは、日光をよくはねかえすので、まぶしく光って見え、はねかえった光が当たったところは明るくなる。かがみのかたむきをかえると、光が当たっているところがあちこちに動き回るので、おもしろくてついでいろいろなものに光を当てたくなるので気をつける。

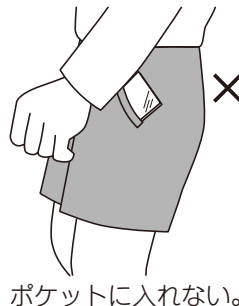
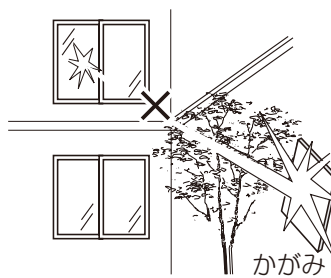
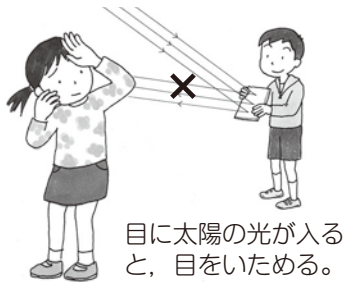
1 使う前に点検をする。

- かがみがかけたりひびわれたりしていないかをたしかめる。
⇒かけたりひびわれたりしているものは使わない。



2 かがみを使うときに気をつけよう。

- はねかえした光を人に当てない。
- 他の教室に向けて光をはね返さない。
- 落ちやすい場所にはおかない。
- われたときは作業用手ぶくろをしてかたづける。
- かがみをポケットに入れて持ち運ばない。
- わたすときは、投げないで手わたす。



3 使った後に点検をする。

- かがみがかけたりひびわれたりしていないかをたしかめてから返す。